

健康百科

インフルエンザ治療薬と副作用



インフルエンザが風邪と違うところは、感染すると38度以上の高熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、倦怠感など、全身症状が中心であることです。

医療機関では、インフルエンザが疑われると、診察に加えて「迅速診断検査キット」を使った検査で、インフルエンザウイルスの有無や、ウイルスの型を調べ、短時間で診断することができます。

治療は、ウイルスの増殖を抑える「抗インフルエンザウイルス薬」による治療が中心。処方される薬には、内服薬のタミフル、吸入薬

のリレンザとイナビル、点滴静注薬のラピアクタの4種類がありますが、発病から48時間を過ぎると、体内のインフルエンザウイルスが増え過ぎて、薬の効果は期待できなくなるので、症状が強い場合は、早めに受診することが大切です。

治療薬の副作用としては、注射部位が腫れたり、かゆみが出たり、嘔吐、下痢などの胃腸症状や発熱、倦怠感、頭痛などが出る場合があります。

重篤なものでは、ショック、血圧低下、呼吸困難、肝機能障害などが報告されていますが、頻度はそう多いものではありません。

以前、治療薬タミフル服用後の小児の異常行動（転落事故）が報告されましたが、これが薬のせいなのか、インフルエンザ自体の副作用なのかは、まだ結論が出ていません。しかし、最悪のことを考え、現在は小児にはタミフルは使用しないことになっています。

大人の場合もそうですが、特に子どもの場合は、服用後2日間注意・観察を怠らないようにすることを心掛けてください。

トラブル

対策講座

健康食品の 使い方に気を付けて

健康食品が原因と思われる健康被害に関する相談が寄せられています。

【事例】3日前、突然発熱し全身に発疹が出たため病院に行った。医師からは最近飲み始めた健康食品が原因の可能性があるとされた。
これまでさまざまな健康食品を利用してきたが、このようなことは初めてなので、商品の成分に問題があるのではないかと思う。販売業者や製造業者に対し、返金と治療費の負担を求めることはできるか。

いつまでも健康で若々しくありたいという意識の高まりからか、健康食品を利用する人が増えていきます。健康食品は通信販売などで簡単に入手できるため、中には何種類もの商品を飲んでいる人もいます。

健康食品は医薬品ではないので、摂取したからといって病気の予防や治療に効果があるわけではありません。安易に飲むことで健康被害が起る場合があります。

健康被害が起った場合には、健康食品の摂取を中止した上で速やかに医療機関を受診し重篤な場合には保健所にも申し出をしてください。健康食品に関する被害として、下痢、アレルギー、肝機能障害などが報告されていますが、特定の健康食品が原因であることを証明することは環境や食事内容などが影響する為、実際には困難です。製造・販売業者に法的な責任を問うことは難しいですが、業者によっては商品の返品や治療費の負担などに柔軟に対応している場合も。消費生活センターに相談してみてください。安易に健康食品に頼らず正しい食生活を送ることが大切です。

